

報道関係各位

2022年8月1日

IoT ゲートウェイの STM6000 シリーズに クラウドやデータベースとダイレクト接続が可能な BLUE Open Studio 対応モデルを発売

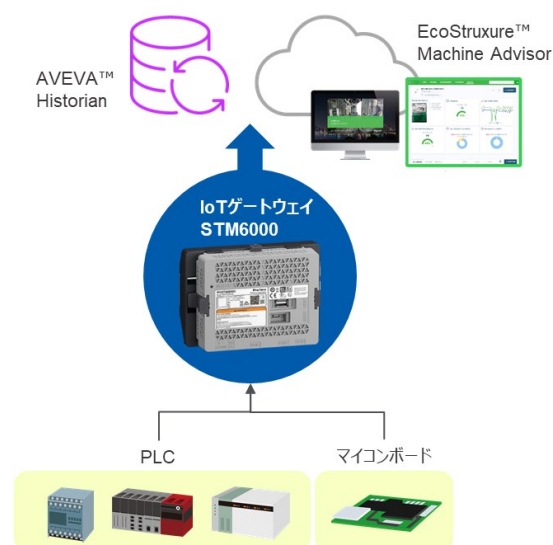
- ソフトウェア 1 種のみで専用機 IoT ゲートウェイとクラウドやデータベースへのダイレクトな接続が設定可能
- MQTT 対応ソフトウェア「BLUE Open Studio」により、Microsoft Azure や AWS（Amazon Web Service）、Microsoft SQL Server など、既に導入済みのクラウドやデータベースとの接続も実現
- シュナイダーエレクトリックのクラウド型常時監視サービス「EcoStruxure™ Machine Advisor」や産業システム用高速時系列データベース「AVEVA™ Historian」などへのスムーズな情報連携にも貢献
- 24 時間 365 日の稼働やシャットダウン処理無しでの電源 OFF に対応

エネルギー・マネジメントおよびオートメーションにおけるデジタルトランスフォーメーションのリーダーであるシュナイダーエレクトリックは、HMI（Human Machine Interface）のリーディングブランド「Pro-face by Schneider Electric」（以下 Pro-face）が展開する IoT ゲートウェイの STM6000 シリーズに、クラウドとのダイレクト接続が可能な BLUE Open Studio 対応モデルを発売しました。本日 8 月 1 日より、提供を開始します。

近年、DX（デジタルトランスフォーメーション）の加速著しい製造業界では、現場の装置からデータを取得し、リモート環境からの監視や、稼働情報のデータ蓄積・分析に活用しようとするケースが企業や拠点の規模を問わず増加しており、その際にクラウドベースのソリューションを導入するシーンが増えています。クラウド環境に接続して装置のデータを利活用するためには、MQTT などのプロトコルを使用する必要性から Windows などの汎用 OS を搭載した産業用パソコンの導入を検討することが一般的ですが、OS のライフサイクルに合わせたソフトウェアアップデートの必要性やセキュリティ対策、導入におけるコストや定期的な再起動の手間などが、クラウドソリューション導入の妨げとなってきました。逆に、汎用 OS 非搭載の PLC や HMI などからクラウドやデータベースとの接続を行う場合には、別のハードウェアやソフトウェアを追加する必要があり、システムの構成部品の増加によって仕入れや保守メンテナンスが煩雑になってしまう点や、特殊なシステムインテグレーションが必要になるなど、設計において非常に課題が多いのが現実でした。

STM6000 シリーズは、Windows OS に代表される汎用 OS ではなく、リアルタイム OS を搭載した IoT ゲートウェイです。このシリーズラインアップの 1 つとして今回発売する BLUE Open Studio 対応モデルは、同じ Pro-face ブランドより展開するラインマネージメント Lite SCADA/HMI ソフトウェア「BLUE Open Studio」による設定に対応するモデルとして発売するもので、BLUE Open Studio が持つクラウドやデータベースとの接続性を継承し、専用機でありながらクラウドまでの接続設定をハードウェア 1 種・ソフトウェア 1 種のみで行うことができます。これにより、24 時間 365 日の稼働やシャットダウン処理無しでの電源 OFF 耐性などの専用機が持つメリットと、シンプルな機器構成でのクラウドやデータベースへのダイレクト接続を両立します。

更に、シュナイダーエレクトリックは、装置の稼働状況をクラウドで常時監視するソリューション「EcoStruxure Machine Advisor」や、ファミリーブランドである AVEVA の産業システム用高速時



系列データベース「AVEVA Historian」など、幅広いクラウドベースのソリューションをポートフォリオに備えています。こうした上位のソリューションと、導入しやすいエントリー機としてエッジボックスの役目を果たす STM6000 シリーズとを組み合わせ、規模の大小を問わず、より多くのお客様に導入可能な IoT ソリューションを提案します。

各製品のより詳細な情報は Web サイトをご覧ください。

IoT ゲートウェイ「STM6000」

<https://www.proface.com/ja/product/commu equip/multi databox/stm6000/top>

Lite SCADA/HMI ソフトウェア「BLUE Open Studio」

<https://www.proface.com/ja/product/soft/bos/top>

※本文に記載されている会社名、製品名およびロゴは該当する各社の商号、商標または登録商標です。

————— 参考情報 —————

Pro-face について

1988 年 10 月に世界初のプログラマブル表示器を提供開始以降、“インターフェイスのスペシャリスト”として最高のインターフェイスをよりグローバルに、よりサステナブルに提供し続けています。2002 年にシュナイダーエレクトリックと資本提携しました。

Pro-face by Schneider Electric を提供する株式会社デジタルは、2017 年 9 月にシュナイダーエレクトリックホールディングス株式会社と合併し、社名変更しました。「for the best interface」のスローガンに基づき、様々な生産現場での産業機械に接続できるベストなインターフェイスとなる製品の開発を目指します。

www.proface.co.jp

Schneider Electric について

シュナイダーエレクトリックは、あらゆる人がエネルギーや資源を最大限活用することを可能にし、世界の進歩と持続可能性を同時に実現することを目指しています。私たちはこれを「Life Is On」と表現しています。

私たちの使命は、持続可能性と効率性を実現するためのデジタルパートナーになることです。

世界をリードするプロセス技術やエネルギー技術と、エンドポイントとクラウドをつなぐ製品、制御機器、ソフトウェアやサービスとを、ライフサイクル全体を通して統合し、その統合された管理を住宅、ビル、データセンター、インフラストラクチャ、各種産業に展開することでデジタルトランスフォーメーションを推進します。

私たちは、最もローカルなグローバル企業です。社会にとって意義深い目的を持ち、多様な意見を取り入れ自ら行動するという価値観を持って、オープンスタンダードとパートナーシップエコシステムの拡大に尽力します。

www.se.com/jp

製品についてのお問い合わせ先

シュナイダーエレクトリック カスタマーケアセンター TEL: 0570-056-800

報道機関からのお問い合わせ先

シュナイダーエレクトリック 広報 松田 Tel: 070-2324-6673 Email: yoriko.matsuda@se.com